

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療養デイ思いやりキッズ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 20日		令和8年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 20日		令和8年 1月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 22日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基準以上の看護師を配置し、医療的ケアを必要とする重症心身障害児が安心・安全に過ごせる体制を整えている。 看護師と各職種が連携し、日々の体調管理や医療的ケアを適切に実施するとともに、利用児一人ひとりの状態に応じた個別性の高い支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 基準以上の看護師配置による安全な医療的ケアの実施。 看護師とスタッフ間での継続的な情報共有。 体調変化の早期発見と迅速な対応。 利用児の表情や反応を大切に丁寧な関わり。 保護者との密な情報共有による安心できる支援体制の構築。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も看護体制の充実を維持し、医療的ケア児・重症心身障害児がより安心して過ごせる環境づくりを継続するとともに職員専門性向上に努め、支援の質の向上を図っていく。
2	同一建物内にサービス付き高齢者向け住宅が併設されており、行事などを通じて高齢者との交流の機会を持つことができている。また、地域の小中学生との合同制作活動を実施しており、利用児が地域社会と関わる機会を確保している。	<ul style="list-style-type: none"> 併設するサービス付き高齢者向け住宅入居者との行事への共同参加。 地域の小中学生を招いた交流活動の実施。 利用児の体調や状態に配慮した無理のない交流の実施。 来所型交流とすることで利用児の身体的負担の軽減に配慮。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も併設施設や地域との交流機会を継続するとともに交流の機会の拡充を図り、利用児の社会参加の機会をさらに充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子ども達との交流が、年1回の実施にとどまっており、継続的・定期的な交流機会の確保には至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児が多く、安全管理体制の確保に十分な準備が必要。 体調変動が大きく、計画的な外部交流の設定が難しい。 交流調整に係る職員の時間的余裕の不足。 地域側との継続的な連携体制が構築途中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回から2回への拡充を目標とする。 少人数、短時間交流の定期開催を検討。 近隣小中学校との事前打ち合わせの機会を設ける。 オンライン交流(作品紹介・ビデオメッセージ等)の導入。 年間計画に地域交流を明確に位置づける。 児童の体調を最優先に無理のない実施。
2	保護者が無理なく参加できる交流機会の提供と、多様なニーズに応じた交流の形を検討する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の就労や兄弟児の育児により時間的制約がある。 交流会の内容について事前のニーズ把握が十分ではなかった。 送迎中心のため保護者同士が自然に交流する機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流会の開催時間や形式の工夫 交流会の内容や開催方法のニーズを把握する。 参加は任意とし、保護者の負担や心理面に配慮する。 交流を目的とするだけでなく、情報共有や安心感の提供の場とする。 保護者が安心して参加できる雰囲気づくりを行う。